お盆をすぎれば尺アユがドカン！蕩々と流れる大河

紀ノ川（きのかわ）

橋本市から紀ノ川市を経て和歌山市を流れる紀ノ川は県内で最も人口が密集する地帯を流れているだけに注目度は低いが大アユとなれば話は別。荒瀬にでかいオトリをねじ込んでスリル満点の釣りを楽しもう！

解説◎上西啓文

パワーロッドで豪快引き抜き

紀ノ川は年間総雨量5000㎜に達するといわれる奈良県大台ケ原を源流とし、奈良県では吉野川と呼ばれ和歌山県の橋本市から紀ノ川と名前を変える。全長約135㎞で和歌山県の北部を流れ紀伊水道に注ぐ。和歌山県内での流程は約40㎞。水量豊富で流れは平均トロ場が多く、見た目は女性的に見える。しかし水量が豊富なのも手伝い、場所によっては岩盤や大岩、ひと抱えぐらいの石が組み合わさり荒々しい流れも顔を見せる。そういったトロ場とトロ場の間にある波気のある場所が好ポイントになることが多い。

アユは天然遡上と漁協が放流する海産と人工産（6000㎏以上）。解禁当初は放流されたアユがメインとなるが梅雨明けごろからは天然遡上もよく追いだす。そして毎年お盆が過ぎた8月後半から大型（尺アユ）の情報が聞こえてくる。しかし他の河川にくらべれば釣行者が少なく情報量に乏しいのも実情である。釣果情報、大雨後の川のニゴリ（上流部にいくつかあるダムの影響）等の情報がほしい時は漁協組合に問い合わせるのが確実だ。とにかく釣行前に河川情報を得るのが必須だ。

それでも有名ポイント、車での入川が可能なポイントの情報がメインとなる。入川が難しいポイント等の情報は、なかなか得られない。しかし裏を返せばサオ抜けポイントも多いわけで、時に思わぬよい思いができることがある。それとオトリ販売店が非常に少ない。私は紀ノ川漁協でオトリを購入してから入川することが多い。漁協にたくさんの養殖池があり日曜日でも誰かが勤務しているので確実に購入できる。

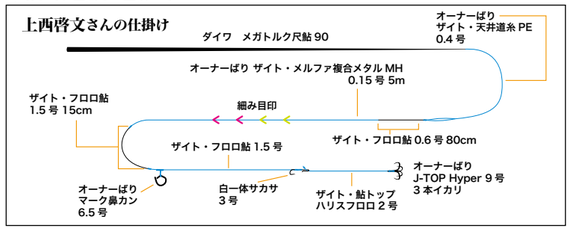
仕掛けは人それぞれであるが私は解禁当初なら0・03～0・06号の金属イト、複合メタルをメインにハリは6～7・5号の4本イカリを使用。サオは9～9・5mで中硬硬クラス。大型の時期になれば0・1～0・2号の金属イト、複合メタル。ハリは8・5～10号の3本イカリ、または3本チラシ。サオは25cm以上のアユが難なく抜けるパワータイプを使用。寄せて取り込むのであれば普通のサオでも対応できる。ただ25～28cmのオトリを操作するには硬めのサオが使い勝手がよい。

気を付けたいのがアユがよく掛かるポイント（特に流れの弱い場所）にはニゴイ、ナマズも多いこと。特にニゴイは大きいのでイトが切れればよいが、無理をすると大切なサオを折ってしまうことがあるので気を付けたい。もし掛かったらサオでタメずに下ザオにしてイトを切るほうが無難だ。

橋本橋下流の瀬。石が大きく流れも速い尺アユの実績ポイントだ

2013年は8月に入っても小型から大型まで釣れるサイズはバラバラだった

パワータイプのロッドで大型アユを豪快に引き抜く最高にスリリングな瞬間。2013年8月11日、午後3時、上西さん至福の時



サイズは27、28cmで尺には届かなかったが、これが紀ノ川の大アユ。周囲に釣り人が多く追いは悪かったが、絞り込みの荒瀬のヒラキでドカンと当たった

kinokawa.indd 8-9　2014/03/22 12:20